ともに挑む。ともに実る。
MIZUHO みずほ銀行

みずほマーケット・トピック（2025 年 8 月 8 日）

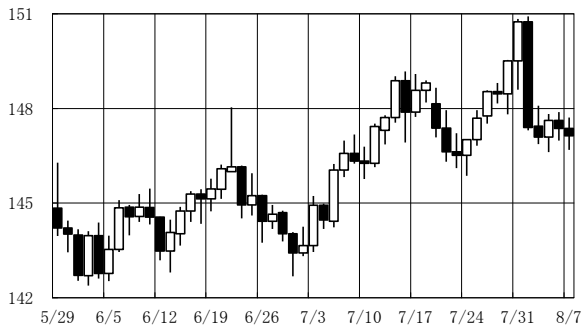
内容　1．為替相場の動向　　2．来週の注目材料
※誠に恐れ入りますが、「3．本日のトピック」はお休みさせて頂きます。

1．為替相場の動向（関連レポート：「みずほ Customer Desk Report」、「今週の為替相場見通し」）

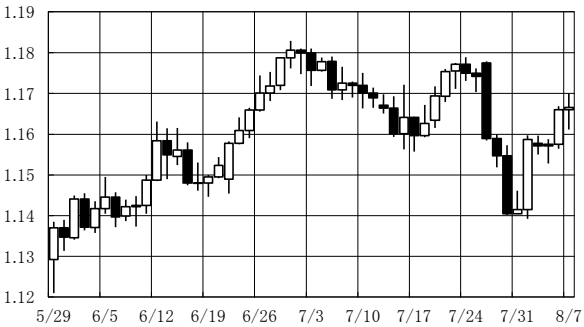
- 今週のドル/円は147円を挟んでレンジ推移した。週初4日、147.35円でオープンしたドル/円はドル売り相場の一服を受けて147円台後半へ上昇。海外時間は、一時週高値となる148.07円に続伸も、米金利が低下に転じる流れに合わせて一時147円を割り込んで反落した。5日、ドル/円は一時週安値となる146.62円に続落するも、日本株の堅調推移などが支えとなり147円台を回復。海外時間は、米金利上昇と共に147円台後半に続伸したが、米7月ISM非製造業景気指数の予想を下回る結果が嫌気され更なる上値追いとはならなかった。6日、ドル/円は147円台半ばで方向感なく推移。海外時間は、米短期金利低下やFRB高官によるハト派的な情報発信が重しになり、瞬間的に147円を割り込むなど軟調に推移した。7日、ドル/円は日米関税合意内容に関するヘッドラインに振らされる中で、147円台で上に往って来い。海外時間は、NY連銀調査の期待インフレ率の高まりが意識され147円台後半に上昇する場面もあったが、FRB人事報道を受けたドル売りの流れが重しになり、147円を割り込む時間帯が見られるなど総じて軟調に推移した。本日のドル/円は、引き続き147円付近で取引されている。
- 今週のユーロ/ドルは週半ば以降にじり高となった。週初4日、1.1588でオープンしたユーロ/ドルは材料難の中で、1.15台後半でのレンジ推移に終始した。5日、ユーロ/ドルは米金利上昇が重しとなり一時週安値となる1.1528まで軟化するも、米経済指標の冴えない結果が好感され1.15台後半を回復した。6日、ユーロ/ドルは米短期金利低下やFRB高官によるハト派的な情報発信が支えとなり、1.16台後半に上昇した。7日、ユーロ/ドルはドル売り相場が継続し一時週高値となる1.1699まで続伸後、独金利低下や米株下落と共に1.16台前半へ反落。しかしその後は、FRB人事報道を受けたドル売りの流れが好感され、1.16台後半へ水準を切り上げて引けた。本日のユーロ/ドルは、引き続き1.16台後半で取引されている。

		前週末	今週			
		8/1(Fri)	8/4(Mon)	8/5(Tue)	8/6(Wed)	8/7(Thu)
ドル/円	東京9:00	150.81	147.35	146.77	147.55	147.17
	High	150.91	148.07	147.83	147.88	147.70
	Low	147.30	146.86	146.62	146.99	146.70
	NY 17:00	147.40	147.10	147.56	147.35	147.13
ユーロ/ドル	東京9:00	1.1420	1.1588	1.1585	1.1584	1.1659
	High	1.1597	1.1597	1.1587	1.1668	1.1699
	Low	1.1392	1.1550	1.1528	1.1565	1.1611
	NY 17:00	1.1586	1.1573	1.1576	1.1661	1.1668
ユーロ/円	東京9:00	172.28	170.67	169.98	170.74	171.85
	High	172.35	171.15	170.91	171.99	172.12
	Low	170.35	169.91	169.88	170.64	171.28
	NY 17:00	170.87	170.23	170.77	171.77	171.63
日経平均株価		40,799.60	40,290.70	40,549.54	40,794.86	41,059.15
TOPIX		2,948.65	2,916.20	2,936.54	2,966.57	2,987.92
NYダウ工業株30種平均		43,588.58	44,173.64	44,111.74	44,193.12	43,968.64
NASDAQ		20,650.13	21,053.58	20,916.55	21,169.42	21,242.70
日本10年債		1.55%	1.50%	1.47%	1.49%	1.49%
米国10年債		4.21%	4.19%	4.21%	4.23%	4.25%
原油価格(WTI)		67.33	66.29	65.16	64.35	63.88
金(NY)		3,399.80	3,426.40	3,434.70	3,433.40	3,453.70

ドル/円相場の動向



ユーロ/ドル相場の動向



2. 来週の注目材料

・ 米国では、12 日(火)に 7 月消費者物価指数(CPI)が公表予定となっている。6 月は+2.7%(前年比、以下同様)と市場予想の+2.6%および 5 月の+2.4%を上回った。食料品とエネルギー価格を除いたコアは+2.9%と市場予想に一致も、5 月の+2.8%から伸びが加速した。内訳を確認すると、非コア項目では、食品・エネルギーの双方がヘッドラインの押し上げに寄与。コア項目では、コア財価格が+0.70%と前月に続き伸び幅が拡大した一方、コアサービス価格は+3.62%と 5 月とほぼ変わらない伸び率を示した。ただし、FRB が重視する居住費除くコアサービス価格は、ブルームバーグの試算によれば+3.02%と 2 か月連続で伸びが加速している。なお、7 月の結果に関しブルームバーグの事前予想では、総合ベースで+2.8%、コアベースで+3.0%と見込んでいる。

・ 本邦では、15 日(金)に 4～6 月期 GDP(速報)が公表予定だ。1～3 月期の結果は前期比で▲0.0%、前期比年率で▲0.2%となり、小幅ながら 4 四半期ぶりのマイナス成長に転落。成長率を大きく押し下げたのは外需の反動減で、純輸出は▲0.8%(前期比、寄与度)を記録した。翻って内需は緩やかに回復したものの、外需の落ち込みを相殺するには至らなかった格好である。ブルームバーグの事前予想では、4～6 月期の結果(速報)に関し前期比で+0.1%、前期比年率で+0.3%と見込んでいる。

	本　　邦	海　　外
8 月 8 日(金)	・6 月家計支出 ・6 月国際収支 ・7 月景気ウォッチャー調査 ・日銀金融政策決定会合　主な意見（7 月会合分） ・自民党　両院議員総会	――――――――――
11 日(月)	――――――――――	――――――――――
12 日(火)	――――――――――	・独 8 月 ZEW 景気期待指数 ・独 6 月経常収支 ・米 7 月 NFIB 中小企業楽観指数 ・米 7 月消費者物価指数
13 日(水)	・7 月国内企業物価指数 ・7 月工作機械受注（速報）	・独 7 月消費者物価指数（確報）
14 日(木)	――――――――――	・ユーロ圏 4～6 月期 GDP（改定値） ・ユーロ圏 6 月鉱工業生産 ・米 7 月生産者物価指数
15 日(金)	・4～6 月期 GDP（速報） ・6 月鉱工業生産（確報） ・6 月設備稼働率	・米 7 月小売売上高 ・米 7 月鉱工業生産 ・米 8 月 NY 連銀製造業景気指数 ・米 8 月ミシガン大学消費者マインド（速報）

【当面の主要行事日程(2025 年 8 月～)】

ジャクソンホール経済シンポジウム（8 月 21～23 日）
ECB 政策理事会（9 月 11 日、10 月 30 日、12 月 18 日）
FOMC（9 月 16～17 日、10 月 28～29 日、12 月 9～10 日）
日銀金融政策決定会合（9 月 18～19 日、10 月 29～30 日、12 月 18～19 日）

国際為替部
チーフマーケット・エコノミスト
唐鎌大輔(TEL:03-3242-7065)
daisuke.karakama@mizuho-bk.co.jp

当資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。ここに記載された内容は事前連絡なしに変更されることもあります。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようにお願い申し上げます。また、当資料の著作権はみずほ銀行に属し、その目的を問わず無断で引用または複製することを禁じます。なお、当行は本情報を無償でのみ提供しております。当行からの無償の情報提供を望まれない場合、配信停止を希望する旨をお申し出ください。

バックナンバーをご希望の方は以下のサイトからお取り頂くことも可能です
http://www.mizuhobank.co.jp/forex/econ.html　(Archives) http://www.mizuhobank.co.jp/forex/econ_backnumber.html

発行年月日	過去6か月のタイトル
2025年8月5日	米EU交渉の評価～妥協か、英断か～
2025年8月4日	遂に現れた関税の影響～雇用統計の読み方～
2025年8月1日	週末版（日銀会合を終えて～霧は完全に晴れずも10月利上げが視野に～）
2025年7月31日	FOMCを終えて～年末以降、非常に厄介な状況に～
2025年7月29日	「米国離れ」の検証～5月は過去最大の資本流入～
2025年7月28日	対米投資利益の解釈～「90%取られる」の意味～
2025年7月25日	週末版（ECB政策理事会を終えて～6月から状況変わらず～）
2025年7月23日	日米関税交渉の合意について～日銀への影響あり～
2025年7月22日	参院選を終えて～現状と展望の整理～
2025年7月18日	週末版（日銀プレビュー～「前門の国内政治、後門の米国政治」～）
2025年7月16日	日本版トラスショック再考～脆弱性は否めず～
2025年7月15日	日本版トラスショック再考～現実味を考える～
2025年7月14日	本邦個人投資家の対外資金フロー動向（2025年6月分）
	日本政治の現状と展望～日本売りの材料になる政治～
2025年7月11日	週末版
2025年7月10日	追い詰められているのは米国も一緒～TACOの前提～
2025年7月9日	関税の緩衝材となる円安～日銀の判断は～
2025年7月8日	膠着する家計の投資意欲とその今後
2025年7月7日	物価高対策を巡る不可思議～王道は利上げ～
2025年7月4日	週末版
2025年7月3日	今、考えるユーロ/ドル相場の高値目途
2025年7月2日	インフレ適応が続く家計、諦観強まる若年世代
2025年7月1日	25年上期レビュー～「欧州の強さ」と「円の弱さ」～
2025年6月27日	週末版
2025年6月26日	NATO首脳会議～動き出した欧州の戦略的自律～
2025年6月25日	「米国離れ」は本当なのか～4月に起きていたこと～
2025年6月24日	衰えないスイスフラン～欧州資産へのローテーション～
2025年6月23日	目立ってきた日本の高インフレと中東リスクへの不安
2025年6月20日	週末版（FOMCを終えて～ドル/円相場への含意～）
2025年6月18日	貫かれなかった「べき」論～優しさの代償は？～
2025年6月16日	中東事変とドル/円相場への影響～円売り優勢～
2025年6月13日	本邦個人投資家の対外資金フロー動向（2025年5月分）
	週末版（変わるドル凋落相場の背景～米国主導ではなく他国主導に～）
2025年6月12日	日銀会合プレビュー～「もう関与しない」を示す時～
2025年6月11日	円の基礎的需給環境について～暴落後の挙動～
2025年6月10日	新しい対内直投目標の読み方～「骨太の方針」～
2025年6月9日	為替政策報告書を受けて～年金運用への注文？～
2025年6月6日	週末版（ECB政策理事会を終えて～利下げ局面の終わり？～）
2025年6月4日	ユーロ圏5月消費者物価指数（HICP）の読み方
2025年6月3日	ECB政策理事会プレビュー～利下げは当然視できる？～
2025年6月2日	欧州再軍備と欧州版ハミルトン・モーメント
2025年5月29日	IEEPA違法判決はゲームチェンジャーになるか？
2025年5月28日	34年ぶりの首位陥落～24年末対外純資産について～
2025年5月26日	懸念通りの米EU交渉～日本との違い～
2025年5月23日	週末版（ユーロ相場の現状について～堅調に潜むリスク～）
2025年5月22日	円金利上昇と為替相場についての所感
2025年5月21日	赤澤ベッセント会談3.0～争点化する自動車～
2025年5月19日	米国債格下げの影響～急性的ではなく慢性的～
2025年5月16日	本邦個人投資家の対外資金フロー動向（2025年4月分）
	週末版
2025年5月15日	懲りないドル安ナラティブ～3度目の光景～
2025年5月14日	円の基礎的需給環境について～25年1～3月期～
2025年5月13日	経産省「デジタル経済レポート」を受けて～その②～
2025年5月12日	経産省「デジタル経済レポート」を受けて～その①～
2025年5月9日	週末版（米英合意を受けて～むしろ心配になる米EU交渉～）
2025年5月8日	FOMCを終えて～デュアルマンデートの拮抗～
2025年5月7日	逆「アジア通貨危機」観測の考え方
2025年5月2日	週末版（日銀会合を終えて～「何もわからず、何も決められず」の状況～）
2025年4月28日	EUの対米戦略について～「デジタル赤字への課税」も～
2025年4月25日	週末版
2025年4月24日	不確実性極まるIMF報告～WEOとGFSR～
2025年4月23日	最強通貨の地位が続くスイスフランからの教訓
2025年4月22日	加藤・ベッセント会談プレビュー～為替は争点なのか？
2025年4月18日	週末版（ECB政策理事会を終えて～6月スタッフ見通しの重要性を強調～）
2025年4月17日	マールアラーゴ合意の読み方～40年前の再現は不可能～
2025年4月15日	日本の構造変化vs. 国際金融体制の再編
2025年4月14日	本邦個人投資家の対外資金フロー動向（2025年3月分）
	日米通商交渉プレビュー～論点の検討～
2025年4月11日	週末版（リスクシナリオの高まり～不穏なベッセント発言～）
2025年4月9日	トランプ大統領はJカーブ効果に耐えられるのか
2025年4月8日	残された望みは「緊急協調利下げ」か？
2025年4月7日	インバウンド需要はピークアウトするか？
2025年4月4日	週末版（正論を掻き消す時代の振り子～デタラメ過ぎる関税根拠と為替政策報告書～）
2025年4月3日	厳しい対米貿易の展望～輸出は減り、輸入は増える～
2025年4月2日	トランプ時代の「為替政策報告書」の意味を考える
2025年4月1日	1～3月期の為替市場外観～割を食うユーロ圏～
2025年3月28日	週末版（世界に拡がるスタグフレーションシナリオ～25%自動車関税の行方～）
2025年3月25日	インフレに適応する家計部門～「貯蓄」から「逃避」～
2025年3月24日	インフレか、デフレか～FOMCを終えて～
2025年3月21日	週末版（日銀会合を終えて～「史上最大の円ロング」、2つの先行き～）
2025年3月18日	「暖かい水」が流れ込むユーロ圏の近況について
2025年3月17日	日銀会合プレビュー～現状維持が基本に～
	本邦個人投資家の対外資金フロー動向（2025年2月分）
2025年3月14日	週末版（史上最大だった対外直接投資～厚くなる日本の「仮面」～）
2025年3月12日	過去最大の円ロングに勝算はあるのか？
2025年3月11日	テーマ化する「欧州の再軍備」～EUの場合～
2025年3月10日	テーマ化する「欧州の再軍備」～ドイツの場合～
2025年3月7日	週末版（ECB政策理事会を終えて～拡張財政路線の足音～）
2025年3月5日	ロ・ウ開戦後3年間の円相場を振り返る～後編～
2025年3月4日	トランプ発言を受けて～「円安はずるい」の一点張り～
2025年3月3日	ロ・ウ開戦後3年間の円相場を振り返る～前編～
2025年2月28日	週末版